

## 地域類型論から見たヨーロッパ諸語の代名詞

下 宮 忠 雄

Tadao SHIMOMIYA

代名詞はどの言語においても基本的な言語財 (Sprachgut) に属している。本稿は印欧語の代名詞の要素がどの程度現代ヨーロッパ諸語に保たれているか、個別言語の発展過程において代名詞の体系にどのようなことが起ったか、地域類型論的のどのような傾向が見られるかを検討しようとするものである。地域類型論 (Arealtypologie) はトゥルバツコイ (N. S. Trubetzkoy) の言語連合 (Sprachbund, *lega linguistica*, 1928) やレーヴィ (E. Lewy) の『ヨーロッパ諸語の構造』(1942) をもとにしている。

### 1. 印欧語代名詞の特徴

主格と斜格が異なる語根をもつことがありうる。その典型は1人称単数で、サンスクリット語 *ahám* (私は) に対し対格は *mam*, ラテン語 *ego* に対し *me* となる。ギリシア語 *egó* の対格は *emé* と弱形 *me* があり、強形 *emé* の語頭の *e-* は主格の語頭音から来ている。代名詞の変化表においては類推や牽引がしばしば起る。ゴート語 *ik* (私は) と *mik* (私を)、ヴェネト語 *exo* と *mexo* において対格語尾は主格からの *attractio* であり、主格は印欧語根 \**eĝ*, 対格は \**me* を正しく反映している。サンスクリット語の主格は印欧語根を *-óm* で補強したものであり、ギリシア・ラテン語のそれは *-ō* で補強したものである。ギリシア語の定冠詞 *ho, hē, tó* は指示詞起源で、ホメーロスにはまだその用法が見えるが、にも印欧語根 \**so* と \**to* の異根形がある。ゴート語 *sa, sō, þata* も同様である。

代名詞特有の格語尾は、とりわけ複数の *-oi* で、ギリシア語定冠詞 *hoi*, ドーリス方言形 *toí*, サンスクリット語 *te*, ゴート語 *þai*, に見え、これはさらに名詞の複数語尾にも入りこんでいる。ギリシア語 *lúkoí* = ラテン語 *lupī* (<*-oi*>), リトアニア語 *vilkaĩ* (狼たち)。-o 幹の複数主格は本来は *o + es* > *-ōs* となるべきで、正規の形はサンスクリット語 *vṛkāḥ* = ゴート語 *wulfōs* (狼たち)、オスク語 *Núvlanús* (カンパーニアの *Nóla* 市民たち) に見える。それと、中性単数語尾 \**-d* で、印欧語 \**tod* (それ) はサンスクリット語 *tát*, ゴート語 *þata*, ラテン語 2 人称指示詞 *istu-d*、疑問代名詞 *qui-d*, 関係代名詞 *quo-d* に見える。ギリシア語 *tó*, 古代教会スラヴ語 *to* には *-d* が脱落している。

印欧語の人称代名詞は1人称と2人称は性の区別をもたず、3人称のみが性の区別をもっていた (*geschlechtig*)。ラテン語 *amatus sum, amata sum, fessus sum, fessa sum* (疲れた) のような場合、分詞や形容詞において男女の区別をすることはできたが。

## 2. 近代ヨーロッパ諸語における発達

古代印欧語 (Altindogermanisch) から近代ヨーロッパ語 (Neueuropäisch) への発達の過程は二つの方向に特徴づけられる。一つは個別言語におけるそれぞれの発達の度合いが大きく、諸言語間の相違がより大きくなったこと。これはアウグスト・シュライヒャーの系統樹説の図式に一致しており、この発展の傾向は分岐的 (convergente) と呼ばれる。一方、近代語は平行的な発達 (Parallelentwicklung) や相互影響によって類似化・接近化・同質化する傾向も併せもっている。これは収束的 (convergente) な発達と呼ばれ、古くヨハネス・シュミットの波動説 (1872)、のち Kristian Sandfeld の『バルカン言語学』(1926, 1930) や既出 N. S. Trubetzkoy の Sprachbund にその考え方が見られる。

以下に代名詞に関して近代ヨーロッパ語的発達の問題点を若干拾ってみる。

### 2. 1. 水平化 (Nivellierung, appianamento).

これは形態論の随所に認められる現象であるが、代名詞に関してはそれほど顕著ではない。ペルシア語 *man* (私は)、*mara* (私をく *man rā*) やジプシー語 *me* (私は)、*man* (私を) には \*eĝ/\*me の異根が水平化されている。古代英語の冠詞 *se, sēo, þæt* > *the* は水平化の顕著な例である。フランス語 *je / me* は印欧祖語をよく反映しているが、これらはもはや自律性 (autonomía) をほとんどもたず、動詞の定形に前接 (proclítico) された形でのみ用いられ、「私」という独立形は *moi* で表現される。*j'aime* [žèm], *je chante* [žsāt] の ž は書記法においては離れているが、バスク語 *naiz* (私は…である)、*noa* (私は行く)、*nator* (私は来る) における語頭の *n-*、あるいはグルジア語の *var* (私は…である)、*mi-vdivar* (私は行く、*mi-* は向こうへ表わす方向辞)、*mo-vdivar* (私は来る、*mo-* はこちらへを表わす方向辞) における *v-* と同じ性格のものになっている。*il m'aime* [ilmèm], *il me chante* [ilmsāt] の *me* も同様に、抱合語に見える人称指標のような振舞いをしている。

2. 2. ラテン語 *amō* に対してフランス語 *j'aime* のような *je* は義務的になっている。*nous aimons* や *vous aimez* のように人称語尾が十分に明示的である場合にも人称代名詞が用いられる。この義務性を H. Kuen 1957 はゲルマン語の影響としている (H. Lausberg, Bd. 3, p. 100) が、これはむしろ語尾不明確化というフランス語内部の必然性によるものであろう。なぜなら、ドイツ語 *ich liebe, du liebst, er liebt* はフランス語よりも明示的であり、相互促進的に平行発達したものであろう。*je chante, tu chantes, il chante*, レト・ロマン語 (オプヴァルド方言) *jeu contel, ti contas, el conta* 等の人称代名詞前置はプロヴァンス語も含めて、他のロマンス語では義務的にはなっていない。現代ノルド語 (デンマーク語、スウェーデン語、ノルウェー語) では人称語尾が完全に水平化してしまったため人称代名詞が必須である。オランダ語やドイツ語は語尾の保存状態が比較的よいが、それでも人称代名詞が用いられる。*I love you* はロシア語で *ja ljubljú tebjá* で、語尾が明示的であるが *ja* が用いられる。この *ja* は古代教会スラヴ語 *azŭ* であるが、印欧語 *eĝ* をよく反映している。『すべての国の人々のための良いたより』(New York 1983) はキリスト教宣教のための小冊子で 60 言語で書かれているが、その表題「あなたは、地上で幸福のうちに永遠に生きられます」(*Vous pouvez vivre éternellement dans le bonheur sur la terre; Lei può vivere felice sulla terra per sempre !; usted puede vivir para siempre en felicidad en la tierra*) が、ヨーロッパの言語のうちで人称代名詞を用いずに表現されているものはアルメニア語、チェコ語、フィンランド語、現代ギリシア語、ハンガリー語、ポルトガル語 (*poderá viver*)、スロヴァキア語である。

2.3. 人称代名詞の1人称と2人称は男女性の区別を表わさないが、alterī, alterae の補強によってスペイン語 nosotros, nosotras, vosotros, vosotras は男女の区別ができるが、カタラン語 nosaltres, vosaltres はそれができない。イタリア語・サルデニア語・フランス語は alteri 等の補強を用いても用いなくてもよい (nous autres, vous autres)。

#### 2.4. 敬称2人称の発達

これはギリシア語やラテン語にはなかった用法で、近代ヨーロッパ的改新である。フランス語 vous, イタリア語 Lei, スペイン語 usted, ポルトガル語 você, ドイツ語 Sie, デンマーク語 De, ロシヤ語 vy, 現代ギリシア語 eseis 等。オランダ語 u (< Uw Edelheid あなたの高貴) はスペイン語 vuestra merced と類似の起源をもっている。ポーランド語敬称 pan (男性に対して), pani (婦人に対して), panowie (複数) はチュルク系の żupan から来ていて、これはもともと取税人の意味であったが、最初は身分の高い人に一般に用いられ、今日では身分の高低にかかわらず広く用いられるようになった (T. Milewski)。Pan wie, że nie mogę Panu pomóc. (You know that I cannot help you.) ブラジル語では o senhor trabalha (あなたは働く), os senhores trabalham (あなた方は働く) のように普通名詞を用いた方がより丁寧になるが、このことはスウェーデン語 Har min herre tid? (Does my gentleman have time? = Do you have time?) などと共通している。英語でも、まれに What does your Excellency think about...? (閣下はどのようにお考えですか) のような使い方がある。

#### 2.5. 指示体系

ラテン語 hic-iste-ille のような3項体系はスペイン語 este-ese-aquel (<ラテン語 iste, ipse, eccu ille), イタリア語 questo-codesto-quello (<ラテン語 eccu istu, eccu ti istu, eccu illu), アルメニア語 so-, do-, no- (例 tun-s 私のところにあるこの家, tun-d 君のところにあるその家, tun-n 彼のところにあるあの家) があるが、ヨーロッパでは this-that 式の2項が多いようである。ドイツ語 dieser, jener, デンマーク語 den her, den der, ポーランド語 ten, tamten, ロシヤ語 etot, tot, ブルガリア語 tòzi, ònzi, ルーマニア語 acesta, acela, 現代ギリシア語 toùtos, ekeinos, フィンランド語 tämä, tuo, ハンガリー語 ez, az など。

#### 2.6. 所有代名詞と冠詞の共起

イタリア語 il mio cavallo のタイプはカタラン語 el meu cavall, 古プロヴァンス語 lo mieus cavals, ポルトガル語 o meu cavalo に見え、ルーマニア語 calul meu はノルウェー語 hesten min (hest 馬, -en は後置定冠詞) と同じ構造であり、所有形容詞後置は同じく南イタリア語 u cavallu mîu, サルデニア語 su caddu meu (定冠詞 su は ipse より)、カタラン語 el cavall meu (強調)、ギリシア語 (古代・現代とも) ho philòs mou (私の友人) がある。古代ギリシア語には所有の強調形として ho emòs philòs があった。

#### 2.7. 二重の目的語指示

He gave the book. をアルバニア語では e dha librin というが、この e は3人称代名詞単数 対格 「それを」であり、librin 「本を」とともに目的語を二重に表現している。librin は libër (本) の定冠詞形 libri の対格である。dha (彼は与えた) はギリシア語アオリスト édōke にあたる。同様に He gave me the book. は, ma dha librin というが、この ma は më + e の縮約形で、理屈は同じである。同じことをルーマニア語では el mi-a dat mie cartea と言い、スペイン語 me dió el libro a

mí と同様に「私に」が二重に表現される。ルーマニア語 *mie mi-a scris* = スペイン語 *me escribío a mí* (彼は私に書いた) にも「私に」が二重に表現されている。目的語の二重標示はバスク語やグルジア語ではもっと厳格に行われる。この現象を E. Lewy はバルカン地域における指示性 (Demonstrativität) と呼んでこの地域を特徴づけている。

## 2.8. 関係代名詞

これは周知のごとく *This is the book. I bought it yesterday* → *This is the book that I bought yesterday.* のように指示代名詞由来のものが、よりプリミティブな表現であり、古代高地ドイツ語 *der, diu, daz*, 古代英語 *se, þe* にそれが見られる。古代ノルド語の *er* (より古形は *es*) は性・数・格に関係なく用いられる関係小詞である。ゴート語 *sa-ei, iz-ei* はともに指示詞に由来しているが、ギリシア語 *hós, hē, hó* (= 古代インド語 *yáḥ, yá, yat*) を訳すに際し、*Wulfila* は関係小詞 *-ei* を接辞するという技巧を用いている。この小詞は古代教会スラヴ語 *i-že, ja-že, je-ze* の *že* やグルジア語 *romeli-c* の *-c* に似ている。その他の地域では疑問詞 *\*kwi- / kwo-* 由来が多く、アルバニア語 *që* (不変化)、アルメニア語 *or* (< *\*kwo-ro, \*kwo-tero* “welcher”), ギリシア語 *poû, pou* (関係副詞 “*wo*” の意味、イタリア語 *che* にならって)、ロシア語 *ko-toryj*, ブルガリア語 *kòj-to*, ルーマニア語 *care*, リトアニア語 *kuris*, フィンランド語 *jo-ka*, ハンガリー語 *aki* などが挙げられる。

## 2.9. 冠詞

サンスクリット語やラテン語には冠詞がなく、*rājā, rēx* は英語の *the king, a king, king* に相当するが、冠詞の発達は典型的なヨーロッパの改新である。しかしバルト語、スラヴ語 (バルカニズムを蒙ったブルガリア語は例外)、フィンランド語には冠詞は発達していない。

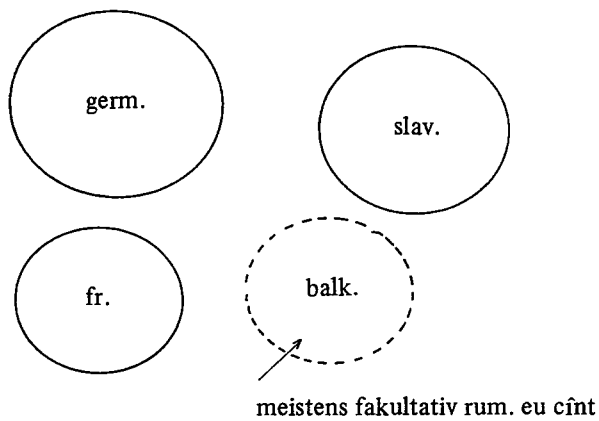
## 3. 結 論

以上をまとめると次のようになる。

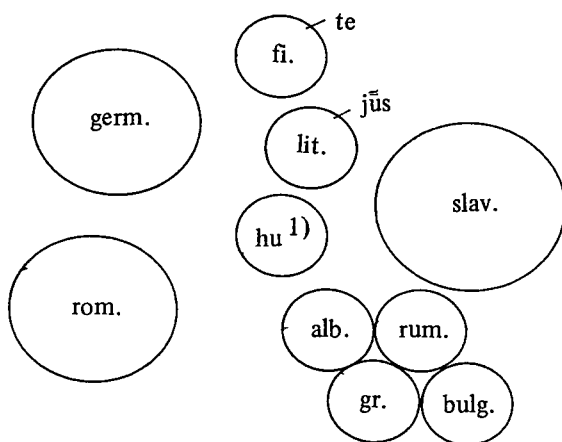
- 3.1. 印欧語の代名詞の言語財は他の品詞にくらべて比較的よく保たれている。
- 3.2. 主語人称代名詞の義務性 (*obbrigatorietà*) はゲルマン諸語とフランス語において最も広く発達した。バルト語とスラヴ語では動詞の語尾において人称が明示的であるにもかかわらず、代名詞をしばしば用いる。これは汎ヨーロッパ的な傾向である。
- 3.3. 敬称 2 人称は複数形を用いるもの (*vous, vy, eseis*) と称号を用いるもの (*usted, pan, dumneată, o senhor*) がある。
- 3.4. *this-that* のような 2 項指示は *hic-iste-ille* のような 3 項指示よりも広く見られる。
- 3.5. 関係代名詞は指示詞由来 (*that, sa-ei*) よりも疑問詞由来のほうが多い。

4. 地域類型論をより分かりやすくするために要点を図示すると次のようになる。

4.1. Subjektpronomen obligatorisch

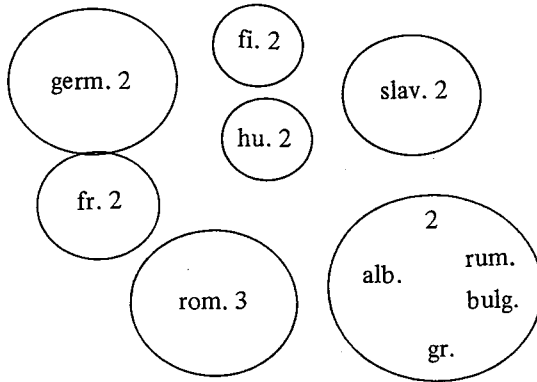


4.2. Höfliche zweite Person

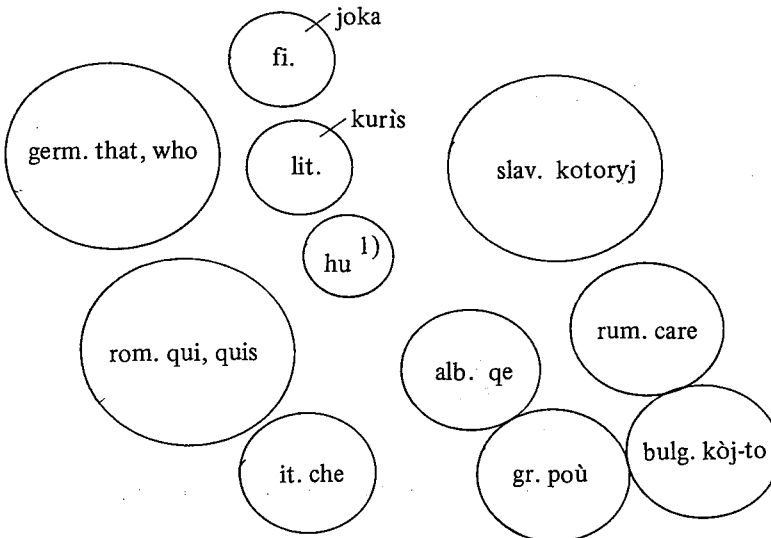


1) Ön, Önök, oder besser Berufs- und Familienname

4. 3. trinäre Deixis (hic-iste-ille) oder binäre (this-that)



4. 4. Relativpronomen



1) interrogativum (Lewy § 181)

5. 参考文献

A. Erhart : Studien zur indoeuropäischen Morphologie. Brno 1970.

H. Haarmann : Aspekte der Arealtypologie. Tübingen 1976.

H. Krahe : Germanische Sprachwissenschaft, Bd. 2. Berlin 1961.

J. Kurylowicz : Inflectional Categories of Indo-European. Heidelberg 1964.

H. Lausberg : Romanische Sprachwissenschaft, Bd. 3. Berlin 1962.

E. Lewy : Der Bau der europäischen Sprachen. 2. Aufl. Tübingen 1964.

T. Milewski : Introduction to the Study of Language. Mouton 1973.

ほかに J. A. Boyle (ペルシア語), W. Brandenstein (ギリシア語), M. Camaj (アルバニア語), F. N. Finck (アルメニア語), J. Kalitsunakis (現代ギリシア語), A. F. Pott (ジプシー語), R. Schmitt (アルメニア語)の文法書や教本を参照した。